SDGs新聞

YKK AP株式会社

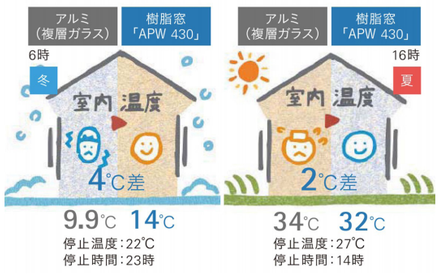
実は「窓」って健康のためにすごく大切

SDGsラジオを読んでみよう！

「冬は家の中も寒い」ということが、当たり前だと思っていませんか？
実は、寒い家に住んでいると病気になったり、ケガする危険性があるんです。
寒くて動きが鈍くなることで転んでケガをしてしまったり、急な温度変化に脳や血管がびっくりして、
重たい病気を引き起こしてしまうことがあります。
そのような問題に、窓をつくることから挑んでいるのが「YKK AP（ワイケイケイエーピー）」です。
塩化ビニールというプラスチックの一種でつくられている、YKK APの「樹脂窓」なら外の温度の影響を受けにくいため、
家の中を快適な温度に保つことができるんですよ。
また、夏は室内での熱中症の予防にもつながります。
さらにエアコンを使用する時間が減るため、お財布にも、地球にもやさしいのもポイントです。
健康のためにも、窓って意外にも大切なんですね。
みなさんのおうちでは、どんな暑さ、寒さ対策をしていますか？

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

「冬は家の中も寒い」と思っている人も多いかもしれません。しかし、寒い家に住んでいると、健康に良くない影響が出ることがあります。例えば、寒さで身体が動きにくくなって転んでケガをしてしまうことがあります。また、あたたかいリビングから寒いお風呂場に行ったときの急な温度変化で脳や血管が驚いて、心臓病や脳卒中などの重い病気を引き起こすことも。冬の寒さから身を守るために、家の中のあたたかさにも気をつけることが大切です。



画像参照：樹脂窓のある家の温度イメージ画像
（マドコト「樹脂窓で健康」p.09）

家の中の温度を快適に保つのに、大きなカギを握っているのが「窓」です。
窓の会社「YKK AP」では、人々に健康で快適な暮らしを送ってもらうために、塩化ビニールを使った「樹脂窓」を作っています。この窓は熱を通しにくいため、外の温度に影響されにくく、家の中をちょうどいい温度に保ってくれます。冬はあたたかさを逃がさず、夏は暑さを和らげるので、冬の寒さによるけがや病気だけではなく、夏の家の中での熱中症も防ぐことができます。また、エアコンをあまり使わずに済み、電気代を節約できるため、お財布にも地球にもやさしいのです。みんなが健康な生活を送るために、窓は大きな役割を持っています。

キーワード

心臓病

心臓病は、心臓がうまくはたらかなくなる病気です。心臓は血液を体中に送る大事なはたらきをしているので、心臓病になると息切れしたり、胸が痛くなったりすることがあります。

脳卒中

脳卒中は、脳の血管が詰まったり切れたりして、脳がうまくはたらかなくなる病気です。手足が動かなくなったり、話せなくなったりすることがあります。

熱中症

熱中症は、暑さで身体が疲れすぎて、体調が悪くなることです。汗をかきすぎて身体の水分や塩分が足りなくなると、頭が痛くなったり、気持ちが悪くなったりします。

対象ゴール

みなさんにできること！

自分でできる、家での暑さ、寒さ対策を考えてみましょう。

おさらい

- 寒い家に住んでいると、健康に悪影響を与えることがある。
- 冬の寒さや夏の暑さから家を守るために、窓は大きな役割を持っている。
- YKK APの「樹脂窓」は熱を通しにくいため、家の中を一年中過ごしやすい温度に保ってくれる。

メモ

SDGsラジオ